

大河ドラマ誘致推進漫画作品「ぼくらの義仲物語」より

まんがでわかる 木曾義仲

第1回 倶利伽羅峠の戦い

平安時代末期の武将、木曾義仲。
津幡町と縁の深い義仲の生涯を、
今月から全7回のシリーズで紹介しします。



あさひ 津幡町に住んどれば、火牛の像は誰でも見たことあるよね。

あかり 倶利伽羅峠やろ、倶利伽羅源平の郷やろ…あ、あと倶利伽羅古戦場にもおるね。

だいき 倶利伽羅古戦場かあ。あんな山の中で角に松明をつけた牛が大量に襲ってきたら、オレ絶対勝てんわ。

あかり しかも夜に突然攻めてきたんやって。こういうの「奇襲」っていうらしいよ。

あさひ そんな敵はみーんな谷に落ちて義仲軍が大勝利ってわけか。

だいき 敵…って、誰やったっけ？

源平合戦のターニングポイントとなった倶利伽羅峠の戦い

津幡町と富山県小矢部市にまたがる倶利伽羅峠は、今から800年以上前に、木曾義仲軍と平家軍による合戦の舞台となった場所です。

鎌倉時代の軍記物語『源平盛衰記』によると、1183(寿永2)年5月11日、平家の総大将平維盛は、倶利伽羅山中の猿ヶ馬場に本陣を敷いて、木曾義仲率いる源氏軍を待ち構えていました。一方、義仲は越中国(現在の富山県)の埴生八幡宮で戦勝祈願を行ったあと、味方の軍を六手に分けて夜が更けるのを待ち、奇襲戦法「火牛の計」を仕掛けたのです。

奇襲を受けた平家軍は大混乱し、人馬もろとも谷に落ちていきました。大勝利を収めた義仲は、この勢いのまま京都へと進軍することとなります。

このときの平家軍は約7万騎、対して義仲軍は約4万騎やったんやって!



次回予告 あさひ「そもそも義仲って誰?なんで倶利伽羅で戦ったんやろ?」 あかり「そしたら次は義仲の生い立ちを見てみんけ」